

こども まんなが アクション

— ファクトブック —

2025年第3版
令和7（2025）年8月

こどもまんなが
こども家庭庁

CONTENTS

第1章 こども・子育てにやさしい社会づくりの現状 ----- 2

出産や子育てにやさしい社会（「令和2年度少子化社会に関する国際意識調査報告書」より）

こども連れで不便、理解や配慮が欲しいと感じる場面

（「こども・子育てにやさしい社会づくりのためのニーズ調査2023」より）

こども未来戦略〔令和5（2023）年12月22日閣議決定〕

こども大綱〔令和5（2023）年12月22日閣議決定〕

第2章 こども家庭庁が取り組む「こどもまんなかアクション」 ----- 6

こどもまんなかアクション

こどもまんなか応援サポーター

こどもまんなかアクションの様々な取組

第3章 こどもまんなかアクションの事例 ----- 10

居場所づくり・こども食堂

インクルーシブ社会

こども・子育て応援

こども・若者主体のアクション

体験型等こどもの育ち応援

共働き・共育て

こどもまんなか応援サポーターとの連携

本資料に関する問い合わせ先

こども家庭庁こどもまんなかアクション推進室

e-mail : kodomokatei-action@cfa.go.jp

第1章

こども・子育てに やさしい社会づくりの 現状

Contents

出産や子育てにやさしい社会 （「令和2年度少子化社会に関する国際意識調査報告書」より）	3
こども連れで不便、理解や配慮が欲しいと感じる場面 （「こども・子育てにやさしい社会づくりのためのニーズ調査2023」より）	4
こども未来戦略〔令和5（2023）年12月22日閣議決定〕	5
こども大綱〔令和5（2023）年12月22日閣議決定〕	5



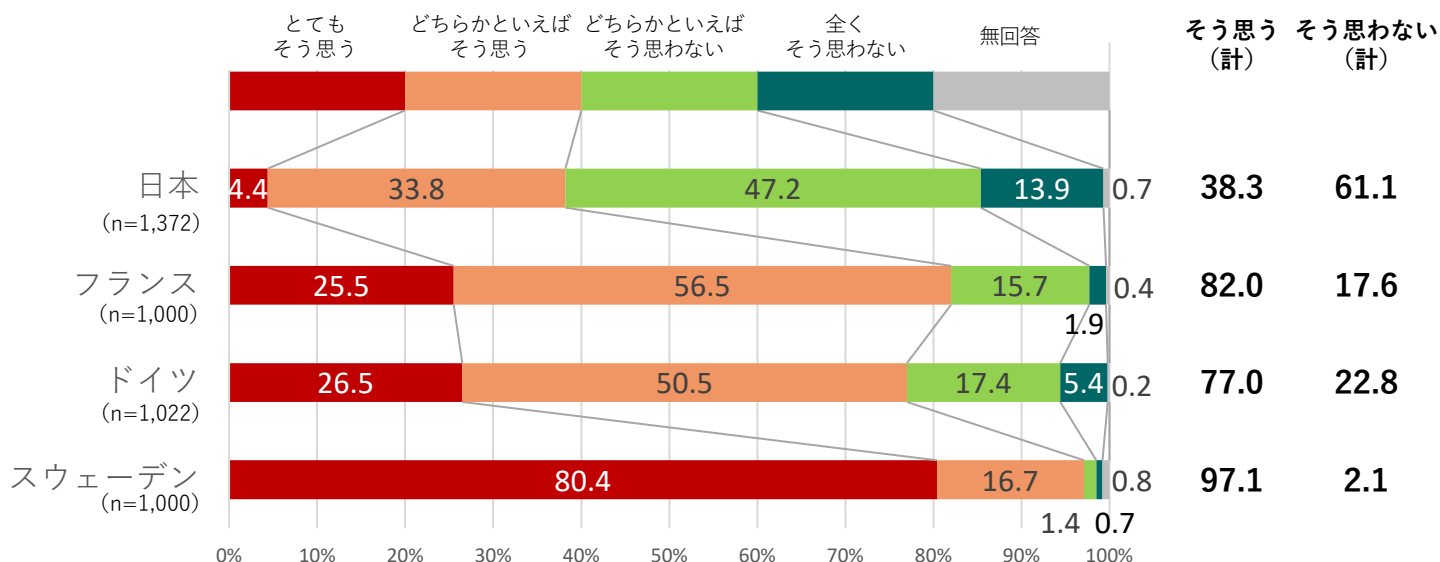
出産や子育てにやさしい社会

日本が出産や子育てにやさしい国と感じている人は少数派

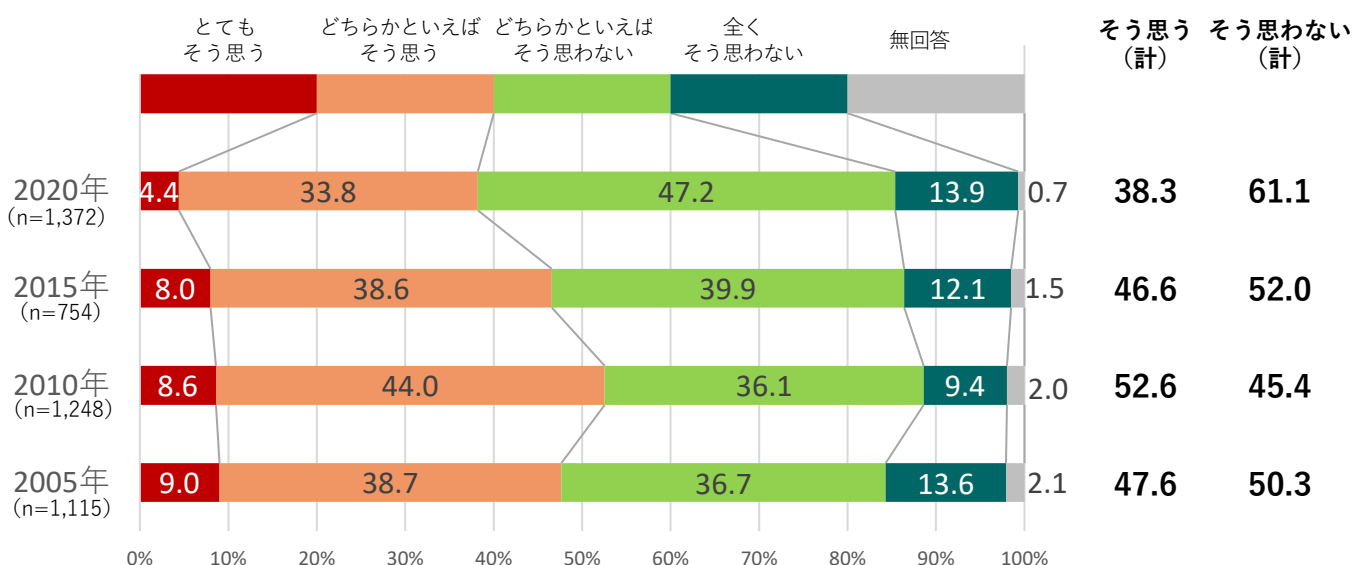
自国が子どもを生み育てやすい国か？——内閣府の「令和2年度少子化社会に関する国際意識調査報告書」によると、日本、フランス、ドイツ、スウェーデンの4カ国の20～49歳の男女に質問した結果、日本では「とてもそう思う（4.4%）」と「どちらかといえばそう思う（33.8%）」を合計した「そう思う（計）」は38.3%で少数派であることがわかりました。これに対して、フランス、ドイツ、スウェーデンでは「そう思う（計）」は75%以上で、4人に3人以上を占める多数派であることがわかりました。また「とてもそう思う」と答えた人はフランス、ドイツで25%以上、スウェーデンでは80%以上に上りました。

また、日本について過去の調査結果を見ると、2010年に「そう思う（計）」と答えた人は52.6%で過半数を占めていました。しかしその後の10年間で大きく減少した一方、「そう思わない（計）」と答えた人が15ポイント以上も増加し、日本が子どもを生み育てやすい国ではないと思う人が増えていることがうかがえます。

子どもを生み育てやすい国だと思うか（4カ国比較、2020年）



子どもを生み育てやすい国だと思うか（日本）



* 出典 内閣府 子ども・子育て本部：令和2年度「少子化社会に関する国際意識調査」報告書（概要版）

https://warp.da.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/13024511/www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/research/r02/kokusai/pdf_g-index.html

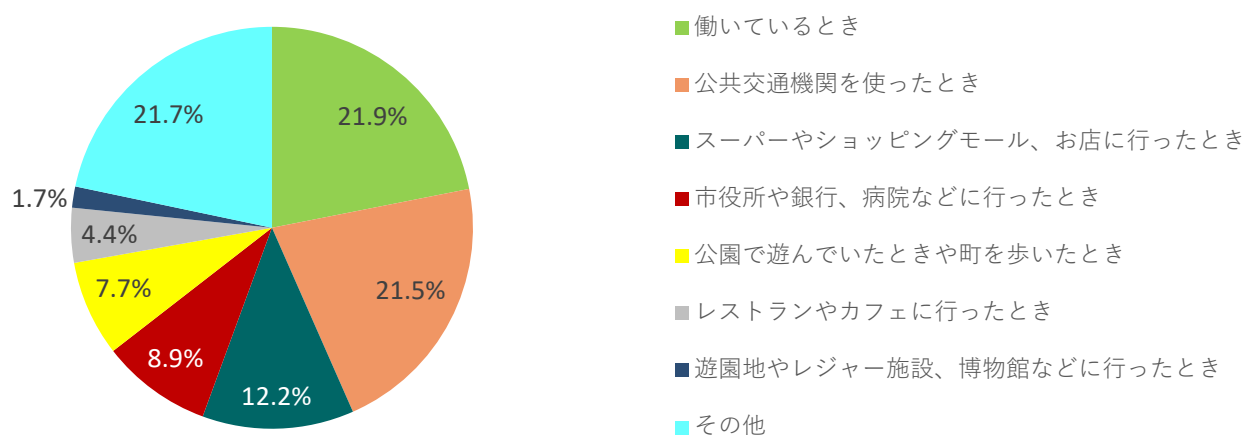
こども連れで不便、理解や配慮が欲しいと感じる場面

「働いているとき」や「公共交通の利用時」など様々な場面で感じている

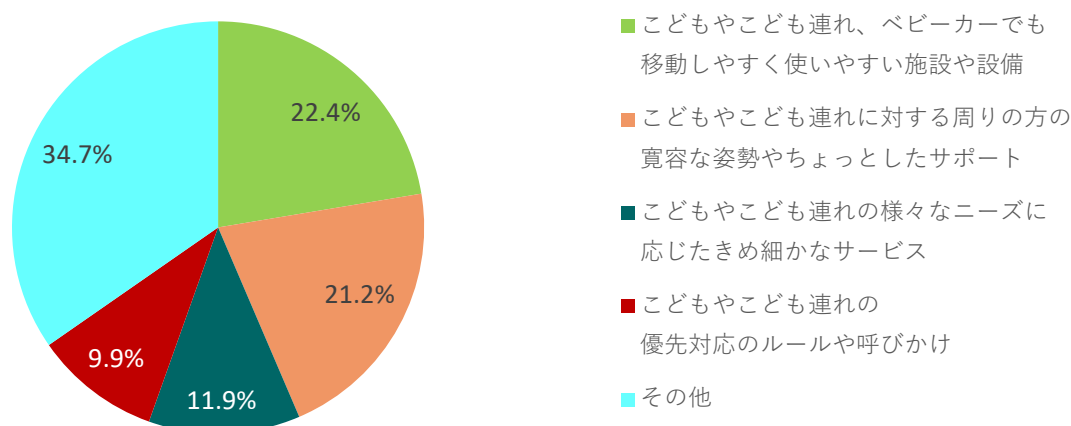
こどもと一緒にいるときに不便を感じたり、理解や配慮が欲しかった場面は？——こども家庭庁が令和5年に実施した「こども・子育てにやさしい社会づくりのためのニーズ調査」には、4,000以上の回答が寄せられました。その結果、「働いているとき（21.9%）」、「公共交通機関を使ったとき（21.5%）」がともに20%を超え、「スーパーやショッピングモール、お店に行ったとき（12.2%）」、「市役所や銀行、病院などに行ったとき（8.9%）」が続きました。

また、「周りから欲しかった理解や配慮の内容」を見ると、「こどもやこども連れ、ベビーカーでも移動しやすく使いやすい施設や設備（22.4%）」と「こどもやこども連れに対する周りの方の寛容な姿勢やちょっとしたサポート（21.2%）」がそれぞれ20%を超える結果となりました。そして「その他」も30%以上に上り、周りから欲しい理解や配慮の内容が多様であることがわかります。

こどもと一緒にいるときに不便を感じたり、理解や配慮が欲しかった場面（全4,455件）



周りから欲しかった理解や配慮の内容（全4,215件）



* 出典 こども家庭庁：こども・子育てにやさしい社会づくりのためのニーズ調査2023
<https://www.cfa.go.jp/policies/kodomo-mannaka>

次頁以降では、現在のこども・子育てにまつわる課題を解決するために、我が国が示した「こども未来戦略」と「こども大綱」についてご紹介します。

こども未来戦略 [令和5（2023）年12月22日閣議決定]

Ⅱ. こども・子育て政策の強化：3つの基本理念

1. こども・子育て政策の課題
 - (1) 若い世代が結婚・子育ての将来願望を描けない
 - (2) 子育てしづらい社会環境や子育てと両立しにくい職場環境がある
 - (3) 子育ての経済的・精神的負担感や子育て世帯の不公平感が存在する
2. 3つの基本理念
 - (1) 若い世代の所得を増やす
 - (2) **社会全体の構造・意識を変える**
 - (3) 全てのこども・子育て世帯を切れ目なく支援する

Ⅲ. 「加速化プラン」～今後3年間の集中的な取組～

1. 「加速化プラン」において実施する具体的な施策
 - (1) ライフステージを通じた子育てに係る経済的支援の強化や若い世代の所得向上に向けた取組
 - (2) 全てのこども・子育て世帯を対象とする支援の拡充
 - (3) 共働き・共育での推進
 - (4) **こども・子育てにやさしい社会づくりのための意識改革**
2. 「加速化プラン」を支える安定的な財源の確保
3. こども・子育て予算倍増に向けた大枠

加速化プランの取組の中で生まれた「こどもまんなかアクション」

加速化プランの4つ目の施策「こども・子育てにやさしい社会づくりのための意識改革」は、こども・子育て政策を実効あるものとするために、こどもや子育て中の方々が気兼ねなく様々な制度や支援メニューを利用できるよう、地域社会、企業など様々な場で、年齢、性別を問わず、全ての人がこどもや子育て中の方々を応援するといった社会全体の意識改革を進めることを目的としています。

そしてこの施策のひとつとして、令和5（2023）年5月に「こどもまんなかアクション」がスタートしました。こどもたちのために何がもっともよいことかを常に考え、こどもたちが健やかで幸せに成長できる社会を実現するという「こどもまんなか」の趣旨に賛同する企業・個人・地方自治体などに「こどもまんなか応援サポーター」となってもらい、「今日からできること」を実践し、取組んだ内容を自らSNSなどで発信してもらっています。この「こどもまんなかアクション」の取組に加え、こども・子育てを応援する様々な取組事例の共有などにより、こども・子育てにやさしい社会づくりのための意識改革を目指していきます。

こども大綱 [令和5（2023）年12月22日閣議決定]

第4 こども施策を推進するために必要な事項

- 2 こども施策の共通の基盤となる取組
 - (5) **こども・若者、子育てにやさしい社会づくりのための意識改革**

「こども大綱（令和5年12月22日閣議決定）抜粋」

こどもや若者、子育て当事者が気兼ねなく様々な制度や支援メニューを利用できるよう、地域社会、企業など様々な場で、年齢、性別を問わず、全ての人がこどもや子育て中の方々を応援するといった社会全体の意識改革として「こどもまんなかアクション」を進めていきます。子育て当事者がこどもと一緒にいるときに感じた不便や周囲に求める理解や配慮に関する調査結果を踏まえ、国の施設や他の公共施設、民間施設におけるこどもや子育て家庭を優先して受け付ける取組やこども・子育てを応援する地域や企業の好事例の共有・横展開、公共交通機関等における妊産婦や乳幼児を連れた家庭に対する分かりやすい案内や妊産婦や乳幼児を連れた家庭への配慮に関する利用者の理解・協力の促進など、様々な取組を通じてこどもや子育て当事者を社会全体で支える気運を醸成していきます。

第2章

こども家庭庁が取り組む こどもまんなか アクション

Contents

こどもまんなかアクション	7
こどもまんなか応援サポーター	8
こどもまんなかアクションの様々な取組	9

※こどもまんなかアクションに関する
こども家庭庁ウェブサイトはこちら

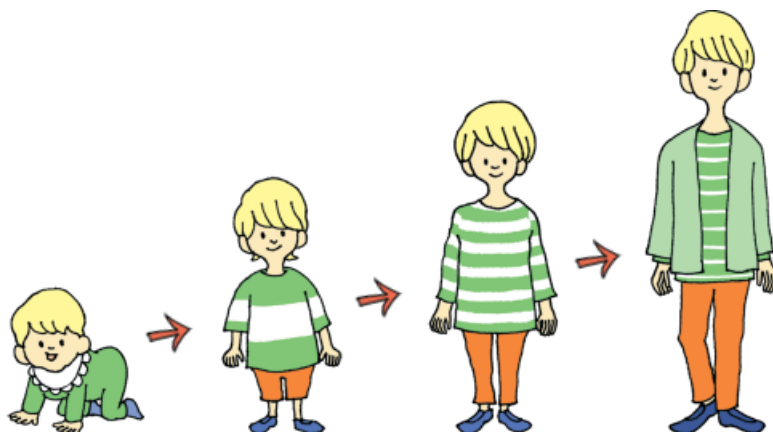


こどもまんなかアクション

こどもの定義

こども家庭庁の「こども」は年齢で区切っていません。

こども基本法では、18歳や20歳といった年齢で必要なサポートがとぎれないよう、心と身体の発達の過程にある人を「こども」としています。



こども・子育てにやさしい社会づくりのための「こどもまんなかアクション」

「こどもまんなかアクション」とはこども・子育てにやさしい社会づくりのための気運醸成の活動です。

「こどもまんなか」の趣旨（右図参照）に賛同する「こどもまんなか応援サポーター」自らがアクションに取組み、その情報を発信いただくことに加えて、その内容をこども家庭庁としても庁のサイトやSNSなどを通じて発信します。そしてこの活動を柱に全国で自治体主催の「リレーシンポジウム」を開催するほか、応援サポーターとの活動連携や意見交換、春・秋のこどもまんなか月間や夏休みに行うイベントなどを通し、サポーターのみなさんの活動をつなげ、見える化し、社会の理解・共感をいただくことで気運の醸成をはかっています。



すべてのこどもや若者たちが
幸せに暮らせるように、
常にこどもや若者の今と
これからにとって
最もよいことは何かを考え、
社会全体で支えていくこと。

こどもまんなか応援サポーター

こどもまんなかアクションを広げる「こどもまんなか応援サポーター」

「こどもまんなか」の趣旨に賛同し、自身が考える「こどもまんなか」なアクションを自ら実行することと発信に取り組んでいただける個人、団体・企業、自治体等を、「こどもまんなか応援サポーター」と呼んでいます。

こどもまんなか応援サポーターに参加するために、申請や届出などの手続きは必要ありません。こどもまんなかの趣旨に賛同し、今日からできる身近な「こどもまんなか」なアクションを実行し、SNSで「#こどもまんなかやってみた」を付けて発信いただくだけで、こどもまんなか応援サポーターとなります。



「こどもまんなか応援サポーター」参加の流れ

- ①「こどもまんなか」の趣旨に賛同する
- ②サポーター自身が考える「こどもまんなか」なアクションを実行する
- ③ご自身・団体のアクションを「#こどもまんなかやってみた」をつけてSNS等で発信する。

こどもまんなかマーク

こどもまんなかマークは、応援サポーターのみなさんがこどもまんなかアクションの趣旨への賛同の意思を表明するためのものです。令和5（2023）年6月に実施した国民の皆様からの一般投票により決定しました。

こども
まんなか

※こどもまんなかマークに関する
こども家庭庁ウェブサイトはこちら



こどもまんなかマークは、文字に様々な色を使うことで、こどもの多様性や個性を表し、
多くの人の思いやアクションがあることを表現しています。

40道府県、343市区町村、2,873の団体・企業・個人が
こどもまんなか応援サポーター参加 ※令和7年7月28日現在

こどもまんなかアクションの様々な取組

「こどもまんなかアクション」リレーシンポジウム

こどもや子育て世代にやさしい社会づくりを推進する取組が全国に広がるよう、自治体が主体となり、「こどもまんなかアクション」リレーシンポジウムを開催します。

令和5（2023）年10月30日に和歌山県で行ったシンポジウムを皮切りに、令和5年度は11か所、令和6年度は18か所で開催。シンポジウムではこども家庭庁や有識者による基調講演や、地域での活動事例の発表、テーマによってはこども・若者も登壇し、パネルディスカッションなどが行われています。令和7年度は、秋田県、八幡浜市、沖縄県など18か所程度で順次開催します。



地域の若者がスタッフとして参加
（佐倉市主催シンポジウムより）

過去開催地域

令和5年度	北海道、埼玉県、神奈川県、福井県、和歌山県、愛媛県、大分県、栃木市、奈義町、福山市、北九州市
令和6年度	青森県、山形県、新潟県、滋賀県、鳥取県、熊本県、仙台市、取手市、前橋市、佐倉市、大田区、羽咋市、浜松市、京都市、豊中市、呉市、北九州市、鹿児島市

こどもまんなかアクション公式LINE

こどもまんなかアクションの公式LINEアカウントでは、子育てを応援する様々な情報をご覧いただけます。公式LINEアカウントの友だち登録者数は現在、8万人を超えています。



こども家庭庁公式note こどもまんなかアクションマガジン

note

こども家庭庁公式noteの中の、こどもまんなかアクションマガジンでは、こどもまんなかアクションの取組や、こどもまんなか応援サポーターと連携した取組事例などを紹介しています。



次章では、こどもまんなか応援サポーターが中心となって行われている「こどもまんなかアクション」の代表的な事例をご紹介します。

第 3 章

こどもまんなか アクション の事例

Contents

居場所づくり・こども食堂	11
インクルーシブ社会	13
こども・子育て応援	14
こども・若者主体のアクション	16
体験型等こどもの育ち応援	18
共働き・共育て	20
こどもまんなか応援サポーターとの連携	21

※こどもまんなかアクションに関する
こども家庭庁ウェブサイトはこちら



こどもまんなかアクションの事例①

居場所づくり・こども食堂(1)

かまくら冒険遊び場・梶原（NPO法人かまくら冒険遊び場やまもり／神奈川県鎌倉市）

かまくら冒険遊び場 梶原は裏山をもつこどものための無料の遊び場です。鎌倉市とNPO法人かまくら冒険遊び場やまもりが協働で運営しています。

遊び場は裏山と2階建ての施設で構成され、施設では工作やお絵描き、読書など室内遊びができるほか、2階には卓球やボール遊びができるプレイルームがあります。幼児親子のイベントも開催しています。お外では、木工やウォータースライダーのほか、裏山をかけまわりながら、秘密基地を作ったり、道や階段を作ってみたり、畑を耕して花や野菜を植えたりなど、自由に自分の「やってみたい」に挑戦することができます。

赤ちゃんから高校生まで、多様な子の居場所となっています。



こどもまんなかおとな食堂プロジェクト

（特定非営利活動法人子育てネットひまわり／香川県高松市）

地域住民、若者・学生、こどもに関わる多職種の人たちがこども食堂やこどもの現状について語り合う円卓会議と、得意や興味(アセット)を出し合いながら生み出すこども食堂の実践を繰り返し、新しいこどもまんなかのコミュニティづくりが進んでいます。

活動に参加した子育て親子は地域の子育てを応援する人たちの存在を直接肌で感じる機会となるだけでなく、地域に対する興味が広がる様子も見られます。

また、最初は“こどものため”と思っていたおとなたちですが、こどもの笑顔や交流が自分に力を与えることに喜びを感じたり、こどもに戻ったように楽しんだりするなど「おとなもおとなしくならないおとな食堂」を大切に思う気持ちが育っています。



こどもまんなか!
おとな食堂
プロジェクト



こどもまんなかアクションの事例②

居場所づくり・こども食堂(2)

地域開放型教室 まなび@R (株式会社クレオテック／滋賀県草津市)

まなび@R は、立命館大学の充実した設備、教育リソース、そして教員や大学生の活力を駆使し、こどもたちに多彩な学びを提供する地域開放型の教室です。実験などアカデミックな体験講座や、現役選手（大学生）が教える陸上教室の他に、無料で大学生から勉強のサポートが受けられるBKC自習広場は大変人気で、誰でも気軽に大学生と交流ができる「居場所」となっています。

今後は大学教員とさらに連携し、研究要素を取り入れた質の高いプログラムの構築や、メタバースや個別学習等、こどもたちがより参加しやすい新しい学びの環境を創造していきます。大学ならではの豊かな経験を糧に、こどもたちが未来を強く切り拓いていけるよう、まなび@Rはこれからもサポートしていきます。



ヨルのジドウカン

(社会福祉法人京都福祉サービス協会 塔南の園児童館／京都府京都市)

ヨルのジドウカン略して『ヨルジド』

毎月第3土曜日に開館時間を延長して中高生世代の居場所づくりの取組みを行っています。

スタッフの顔触れは、大学生やヨルジド利用者出身の社会人たち。

少し年上のお兄さんお姉さんたちと身体を動かして遊んだり、お菓子を囲んでおしゃべりの輪に花が咲いたり、はたまたひたすらマンガを読み続けて帰るこどももいます。

地域の夏まつりではヨルジド利用者のこども達が地域のこども達に向けて毎年ゲームコーナーを担当します。何日も準備を重ねて今年も大盛況で終わりました。



こどもまんなかアクションの事例③ インクルーシブ社会

ろう学校と連携した手話カフェ（地域デザインラボさいたま／埼玉県）

地域デザインラボさいたま（以下、ラボたま）の社内ビジネスコンテストにて聴覚障害をもった社員が、大人もこどもも、健常者も障がい者も共生できる社会を目指して、手話カフェ事業を提案。

金融経済教育等でりそなグループと接点のあった坂戸ろう学園、地域の障がい者支援事業者である（一社）Ciel（Green Peas Factory）さんにお声がけし、一緒に実施するに至った。

ろう学園の生徒たちはポスターを作成したり店員を主体的に務め、りそなグループの従業員も指差しメニューを作成したり手話通訳等を実施し、飲食運営についてはGreen Peas Factoryさんにご協力いただいた。3日間のポップアップ開催の間に約600名の方にご来店いただき、今後、定期開催に向けて検討を進めている。



クロスボーダー・プロジェクト（クロボ）（都留文科大学／山梨県都留市）

「クロスボーダー・プロジェクト（クロボ）」は、障がいの有無・軽重にかかわらず、地域のだれもが安心して楽しく参加できることを念頭においた、週末の居場所づくりの活動です。2014年11月に活動を開始しました。

学期中の5～7月と10～12月、月1回土曜日（10:00～15:00）に、都留文科大学の施設を使って開催しています。多いときには100名にもおよぶ、学生・教員・市民・参加者（幼児～成人）とで協働しながら、スポーツ、アート、音楽、そうごう学習、環境学習などの活動を開催しています。

クロボは、こども・大人の居場所づくりの実践とも、障がい児・者の生涯学習支援の実践とも言うことができ、その場にいる皆で、インクルーシブな空間を共につくっています。



こどもまんなかアクションの事例④ こども・子育て応援(1)

ミキハウス プレママ・プレパパセミナー（ミキハウス／全国）

赤ちゃんを迎えるママやパパ、ご家族のみなさまに向けて、ご出産前の不安を少しでもやわらげ、これからはじまる赤ちゃんとの生活を安心してスタートしていただけるよう、全国各地で定期的に「プレママ・プレパパセミナー」を開催しています。抱っここのしかた、肌着の着せ方、おむつのつけ方、沐浴の仕方などを新生児と同じ大きさ、重たさの赤ちゃん人形を使いながら体験していただけるセミナー。その他、希望者には抱っこひも体験もしていただけます。また会場には、赤ちゃんウェアや寝具、スキンケアなど、気になるアイテムのサンプルも展示しています。スタッフにお気軽にご質問いただきながら楽しくご参加いただけるセミナーとなっています。



ウエルカムベイビー事業（氷見市地域子育てセンター／富山県氷見市）

市内全中学校2年生を対象に実施しています。

1時限目は、助産師による「命の授業」で、妊娠から出産など赤ちゃんの命について聞き、胎児ちゃん人形を使って妊娠中をイメージしたり、思春期の性や二次性徴についても聞きます。自己肯定感や命の尊さやこころの認識にもつながる内容です。

2時限目には赤ちゃん和妈妈を迎えます。中学校の規模に合わせて依頼したモデル親子は、抱っこさせてくれたり質問にこたえたりし、市オリジナルのライフプランシートを使って、自分が親になることをイメージしてみます。

コロナ禍でリモートにした時期もありましたが、この授業を受けた人が子育てセンター利用者として再会できるなど喜びもあり、今後も継続して実施予定です。



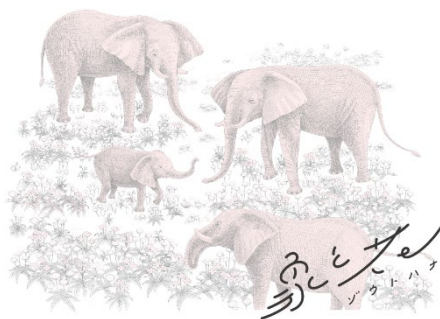
こどもまんなかアクションの事例⑤ こども・子育て応援(2)

象と花(株式会社盛岡書房/岩手県)

象と花は「冒険者に知恵と力を。」をテーマに、未来という名の冒険に旅立つこどもたちへ“本”を届けています。本はこどもたちに人生を切り拓く知恵、困難に立ち向かう力、そして一步を踏み出す勇気を育んでくれる存在です。

この“本の贈り物”を支えているのは、地元企業や地域の皆さまのあたたかな想い。古本の回収・販売、グッズの収益をもとに、書店や出版社などと連携し、本の寄贈やイベントを実施しています。

街がこどもたちを後押しする冒険の舞台となり、本が未来への道標となるように。そんな取組を私たちは進めています。



岐阜県小児リハビリマップ(公益社団法人 岐阜県理学療法士会/岐阜県)

岐阜県による重症心身障がい児者への調査において、「住んでいる地域で十分に小児リハビリが受けられない」との声が寄せられました。

そこで、当会では小児リハビリに関する①人材育成②機関の情報提供③福祉機器の情報提供の事業を開始しました。

令和3年1月、岐阜県内の小児リハビリが受けられる56機関の情報を1冊にまとめた「岐阜県小児リハビリマップ」を冊子またはダウンロード形式にて配布・配信致しました。

情報更新は、随時、情報変更の届け出を受け付けており、常に最新の情報を提供しています。

令和6年11月現在、72機関が掲載されています。

当マップによって小児リハビリを必要とするこどもたちとそのご家族が正確な情報を得ることができ、各地域において小児リハビリを受けやすくなれば幸いです。

GPTA
岐阜県理学療法士会

岐阜県小児リハビリマップ

2024年1月31日現在

こどもまんなか

公益社団法人 岐阜県理学療法士会
こども福祉部



こどもまんなかアクションの事例⑥

こども・若者主体のアクション (1)

こども若者ボイス（長浜こどもまんなか／滋賀県長浜市）

長浜市では、こどもや若者の笑顔になる回数が今よりもたくさん増えている社会をめざして、「こども若者ボイス」を展開しています。

中学生トークでは、生徒たちが地域の魅力である竹生島の散策を体験。また、「長浜のことをもっと好きになって、地域を誇りに思い、愛着をもってもらうためには『どんなもの・どんなこと』があれば嬉しいですか？」をテーマにワークショップを開催し、意見やアイデアをイラストにして、生徒たちの思いが詰まったドリームマップを作りました。また、高校生トークでは「ここがヘンだよ！長浜市」などをテーマに、市に対し感じていることや提案したいことを自由に出していただき、大いに盛り上がりました。

これからも、こども若者の声を大切にしながら、笑顔あふれるまちをめざしていきます。



お福wapi（NPO法人キリンこども応援団／大阪府泉佐野市）

フリースクールキリンのとびらに通うこども達が運営する期間限定カフェ「お福wapi」。将来、料理人になりたい！お店をもちたい！という夢を持てるようになったこども達。そんなこども達が口にした「こども達でお店をやりたい！」という夢を実現。

私たちのカフェで私たちの幸せと温かい居場所をお福分けしたい！そんなコンセプトのもと、「お福分け」とスワヒリ語で「居場所」を表す「wapi」の2語を合わせて「お福wapi」という店名になりました。

お福wapiでは、こども達が自ら調理・接客をするだけでなく、コンセプト作りやメニュー考案・試作、原価計算、仕入れ、広報、経営会議まで、職業体験以上の経営体験を得ることができました。

こども達自身の「やってみたい！」を実現したからこそ頑張れる夢への第一歩。

これからも、こども達が未来に踏み出せる居場所を創り続けていきたいと思います。

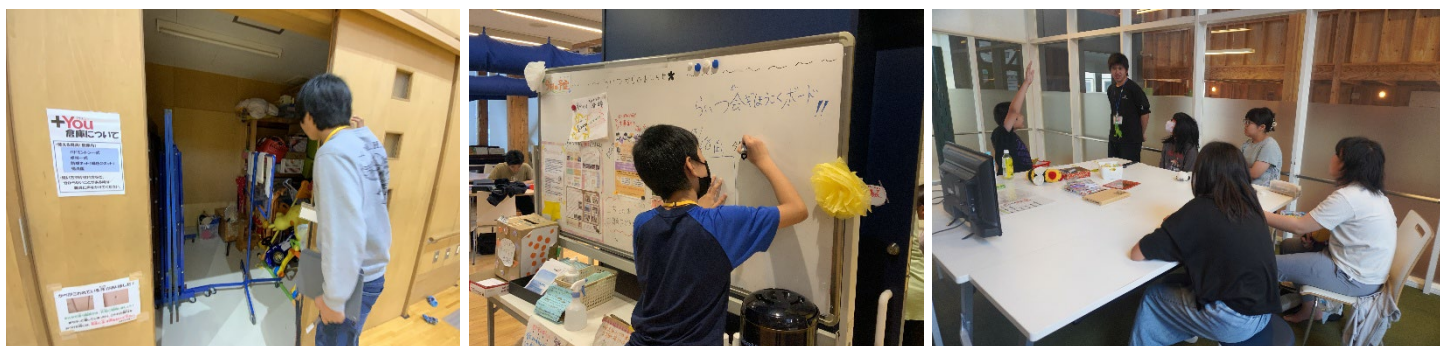


こどもまんなかアクションの事例⑦

こども・若者主体のアクション (2)

らいつ会議（子ども会議）（石巻市子どもセンターらいつ／宮城県石巻市）

「らいつ」とは石巻市子どもセンター（児童館）の愛称です。この愛称は、中学生が考えたもので、全国から集まった愛称候補から選ばれました。らいつの由来は英語でrights(権利) lights(ひかり) の二つの意味を持ち、こどもの権利の拠点として、未来の希望の光としてセンターが存在するという願いが込められています。らいつ会議では、らいつの利用方法にこどもたちの声を反映するため、小学4年生から高校生までのメンバーが月に2回集まり、遊具やおもちゃ、ルールについて様々な意見を出し合っています。今年は「らいつのみんながだれにでも声をかけられて、優しくできるらいつ」「暴言・悪口をなくして当事者が正面から話し合うらいつ」という目標を立てました。会議メンバー自らが会議の進行や書記等の役割を担い、必要であれば会議メンバーが利用者にインタビューなどをして、より広く利用者の声を聞けるように会議のやり方を考えました。また、自分たちの活動に活かすため、県内の他のこども参加で運営をしている児童館を見学に行き、良いところや自分たちでもできそうなことを取り入れ、イベントや運営に活かしています。



仏生山こどもらぼ（香川大学 佛生山らぼプロジェクト／香川県高松市）

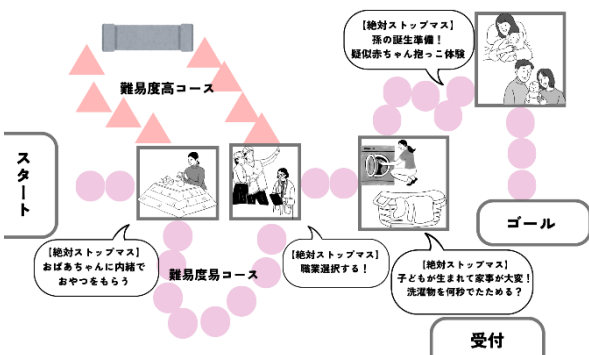
仏生山こどもらぼの主な取組は、大学生と地域住民が協力して、こどもたちに多様な体験の機会を提供し、地域の世代間交流を図ることです。昨年度、実施した「体験してみたいこと」の聞き取りをもとに、実現可能な内容を計画に反映しています。地域のお祭りやイベントでの出店体験など、学校では得られないような体験を大学生のサポートのもとで実施し、こどもたちの成長につなげることを目的としています。また、主体性を育むため、活動内容についてこどもたちの意見を積極的に取り入れ、計画の流れから大きく外れることなく反映できるよう工夫しています。今後も、こどもたちとともに学び合い、成長し合える活動を続けていきます。



体験型等こどもの育ち応援(1)

100年すごろく！（一般社団法人はぐネット／石川県野々市市）

「100年すごろく！」は、人生100年をテーマにしたオリジナルのすごろくゲームです。誕生から成長、大人になり、孫が生まれるまでを体験できる内容で、マスの一部に【絶対ストップマス】を作り、そこで世代間の交流を促進します。マスのミッションを達成するとウェルビーイングシールを獲得できます。ゲーム制作の過程では、多世代で「昔」「今」「これから」を語り合い、それぞれの視点を共有し、すごろくの内容を考えました。当日は、シニア世代2名、大学生8名、地域コーディネーターがスタッフとして、親子30組の参加者と交流しながら部屋全体をすごろくの盤としてゲームを進行しました。今後は、ゲームの汎用性を高め、さらに多世代が交流するきっかけをつくりたいです。



こどもてつがく（一般社団法人てつがく屋／公益財団法人丸亀市福祉事業団／香川県）

私たちは、こどもたちが自ら疑問を持ち、創造的に思考する力を育んでほしいと願い、令和4年度より小学生を対象に月1回の哲学対話に取り組んでいます。この活動では、正解のない問いについて、こどもたちが自由に意見や疑問を交わしながら考えを深め、安心して探究できる場を一人ひとりが担う意識も育みます。

こどもたちは、回を重ねるごとに、根拠を示して自分の考えを説明したり、他のこどもに問いかけたりできるようになりました。こうした成長をより多くの大人に知っていただきたいと考え「公開こどもてつがく」を開催しました。登壇したこどもたちは、来場者を前に、堂々と議論を交わし、大人からは「子どもの発想から考えさせられた。」「自分も混じりたい。」との声が寄せられました。登壇したこどもたちの方は、大人の真剣な傾聴に驚いた様子でした。



こどもまんなかアクションの事例⑨

体験型等こどもの育ち応援(2)

こどもアート・自然を楽しむ畑の学校

(一般社団法人ヒカリプロジェクト／富山県高岡市)

「こどもアート」として、職員のこどもだけでなく、地域のこどもも参加できるこどもアートクラスを2021年12月から定期的に行っています。病院の患者さん対象に行っているアートセラピーの一つ「臨床美術」は、コミュニケーション能力や感性教育にも役立つと言われています。「虫の王様」「おもしろ深海魚」「氷の結晶」「満開の桜」などさまざまなテーマでの作品作りを親子で楽しむ時間となっています。最初ははしゃいでいたこどもたちも、中盤にはとても集中して一人一人が好きなように自由に自己表現し、自分の世界を楽しんでいます。毎回、こどもの個性が爆発し、鑑賞会ではみんなの作品を並び、先生に素敵なおところをみんなの前で伝えてもらい、とてもうれしそうです。



親子避難所Camp2025～冬の避難所TKB～（お産ラボ防災部／静岡県静岡市）

総勢34組81名の参加者と共に冬の体育館に宿泊をしました。災害時に大切なTKB（トイレ・キッチン・ベッド）にもチャレンジします。トイレは、静岡県立大学短期大学部社会福祉学科地域防災ゼミのゼミ生が講師となり、段ボールトイレを作ります。キッチンは、新聞紙を折った紙皿と牛乳パックでスプーン作り、こどもたちにはじゃがりこサラダを作ってもらいました。災害時の炊き出し訓練も兼ねて夕食はカレーライスです。温かい食事はホッとさせてくれます。ベッドは、寝袋の下に段ボールやマットレスを敷きます。冬の暖房の入っていない体育館、プライバシーが確保されていない空間、まわりの人のいびきや足音が気になります。短い時間ではありましたが、体験した方は多くの学びがありました。



こどもまんなかアクションの事例 ⑩

共働き・共育て

子連れワーク「ママプラス」(特定非営利活動法人 彩結び/東京都北区)

わたしたちは、こどもと一緒に働く新しい働きかた「子連れワークママプラス」を実践しています。

現代の日本の社会で足りていないフルタイムだけではない柔軟な働き方、職住近接のモデルケースとなる取り組みです。

働くママ達は、こどもを保育園等に預けず一緒に出勤し、仕事中は、抱っこやおんぶ【カンガルーワーク】、ママ同士の預かりあい【ペアワーク】や多世代のボランティアにこどもの保育をお願いする仕組みを活用し、仕事に従事しています。

ママ友ともサークルとも違った【仕事】という軸での新しい繋がり・役割を得ることで、育児中のママの孤立化やこどもへの虐待を防止します。

また、「保育園に入れないが、働きたい・社会参加したい」という想いを持つママが、自ら助け合うことで就労・社会参加の機会を切り拓きます。



Co育てPROJECT (江崎グリコ株式会社/全国)

「Co育てPROJECT」は妊娠から始まる1000日間をサポートするプロジェクトです。ママとパパ、こどものまわりにいるみんながコミュニケーションを取りながら協力し、一緒にこどもを育てるスタイルを促進しています。

具体的な取組として、誰もが使える子育てアプリ「こぺ」の無償提供、日本初の乳児用液体ミルク「アイクレオ赤ちゃんミルク」の発売、企業向け両親学級「みんなの育児研修」の実施、他社や自治体との協同取組などがあります。また、社内では独自の育休制度で育休取得率100%を2020年度以降継続、上司・同僚が育児に対する理解を深められる仕組みを継続して実行しています。

これらの活動により社会における育児に対する理解を深め、今後も育児環境の改善を目指して参ります。



こどもまんなか応援サポーターとの連携 (1)

番町SJEマルシェ

「障害者の就労支援をもっと楽しく！開かれたものに！」をコンセプトに、こどもまんなか応援サポーターの一般社団法人HAKKENが主催する「番町SJEマルシェ」に参加しました。このマルシェでは、約30名のダウン症や知的障害のある若者たちが、マルシェで共に働き、地域の方々とふれあう体験をします。

こども家庭庁は「缶バッジづくりを体験できるブース」を出展し、ばんくん、みさちちゃん、りょうたくんの3人が仕事のお手伝いに来てくれました。3人には、お客さんの缶バッジづくりのお手伝いや、こども家庭庁の資料の配布、こどもまんなかアクションを発信するLINEの宣伝の仕事をお願いしました。

会場やブースに来たお客さん1人1人に丁寧に接したり、満面の笑顔で宣伝したり、とても楽しそうに仕事に取り組み、こども家庭庁の看板スタッフとして大活躍でした。



のくにラボ～わたしたちのウェルビーイング、みーつけた！

宮崎県の都城市立図書館にて、都城商業高等学校の共創ウェルビーイング部（通称：のくにチーム）が主催する「のくにラボ～わたしたちのウェルビーイング、みーつけた！～」と題したワークショップが開催されました。第一部では、《まちのウェルビーイングな居場所ってどんな場所？》をテーマに、NTTコミュニケーション科学基礎研究所の渡邊氏、都城商業高校の北郷先生、こども家庭庁職員によるトークセッションが行われました。

そして第二部では、《あなたにとって大事なものってなあに？》と題して、ご来場の市民のみなさんも一緒にグループワークが行われました。「信頼」「成長」「決まりを守る」など大事にしたい要素が記されたカードから、「あなたがこのまちで大事にしたいこと」「みんなで決めた大事にしたいこと」を選び、理由とともに発表されました。それぞれの意見がグラフィックレコーディングで、あっという間にイラストで記されたことにより、記憶に残るワークショップとなりました。



こどもまんなかアクションの事例 ⑫

こどもまんなか応援サポーターとの連携 (2)

ユースのアクションサミット

全国で広がりを見せている「こどもまんなか応援サポーター」の中から、とくに若者世代（ユース）が主体的に活動している団体にスポットを当て、同世代が交流する「ユースのアクションサミット」をこども家庭庁で開催し、全国から若者主体で活動している6団体が参加しました。

第一部は、各団体が地域でどのような活動をして、どのようなことを感じているのかを紹介しました。それぞれが感じる課題に対して、前向きに楽しく取り組んでいる様子がわかり、会場からは大きな拍手が送られました。

第二部は、「わたしたちと地域のウェルビーイングを考えよう」をテーマに、グループに分かれてワークショップを行いました。参加者からは「否定しないというルールが最初にあった良かった」「感じ方がみんなそれぞれで、人の意見を受容することの大切さを感じた」「自分たちと同じように考えて活動している同世代がいっぱいいるってことがわかって励みになった。がんばろうって思った」などという感想が聞かれました。



こどものまわりのおとなサミット

全国でこども・子育てを支える活動をしているサポーター団体とその関係者が集まり、それぞれの活動内容を紹介。また、活動の継続性や地域での連携などをテーマとした意見交換をグラフィックファシリテーションを取り入れた形式で実施しました。「ななめの関係性づくりはとても大事。こどもたちの活動に大学生が入ることは発見だった」「地域のしがらみは確かにあるが、それを超えて活動するには「よそ者の視点」も有効」

「発信・PRの重要性を感じた。若者が入るとおしゃれな発信になる」といった活発な意見が交わされました。

